

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) KT
所属 (School) 医学部 医学科
学年 (Grade) 3 年

留学先 (Name of overseas institution)
コンゴ民主共和国
留学期間 (study abroad period)
2022/11/2~2022/11/20

記入日 (Date) 2022/12/22

留学レポート Study Abroad Report

【プログラム参加を決めた経緯】

医学部医学科では、3 回生の後期 (9~12 月) に医学研究推進コース 3 (旧修業実習) というコースがあります。そこで学年全員がそれぞれに興味のある研究室を選び、そこで研究をされている先生方から研究について学んだり、場合によっては自分のしたい研究をしたり私のように海外に行くこともできます。寄生虫学教室では海外へ渡航することが可能な教室であり、自身も感染症に興味があることからこの教室を選ぶことに決めました。ケニア、エルサルバドル、コンゴ民主共和国の三ヶ国に実習参加することができるのですが、僕は今後行ける機会がほとんどないと思われるコンゴ民主共和国を選びました。現地ではマラリアの感染者が非常に多く、世界の現状を自身の目で見てみたいという強い思いから渡航を決意しました。



【渡航するにあたって】

実際コンゴ民主共和国は観光目的での入国はできませんし、ビザを取得するのに 1 ヶ月程度は必要な上、現地のインビテーションレターも必要と渡航するだけでもハードルがかなり高い地域です。コンゴ民主共和国は渡航の危険情報がレベル 2 で渡航中止勧告が出ている地域です。入国に必須である黄熱ワクチンをはじめとした様々なワクチンが必要でした。先生方もお忙しいので、渡航時期や特に引率教員は直前まで決まらず 3 週間の渡航となりました。結局、単独での渡航となり、後から先生がいらっやって数日間滞在された後先に帰られたので、単独での帰国となりました。

【実習内容】

コンゴ民主共和国に行くと、実習内容は自分自身である程度設定することができます。僕は、薬剤抵抗性をもつマラリアに興味があったので、それについて日本で論文を読んで勉強して渡航しました。現地では、実験機器が少ない代わりに、サンプルや病気についてのホットな情報が容易に手に入れることができます。僕は、臨床の医師として必要な技能である、プレパラートの作成と顕微鏡学的診断をできるようになることを目標としていました。現地には国立生物医学研究所 (INRB) という研究所があり、そこが私を受け入れて下さりました。自身の学びたいことを伝え、実習プログラムを組んで下さいました。

① INRB でプレパラート作成と診断のためのトレーニング



←プレパラートの作成

顕微鏡を使った
種類の同定 →



①まず、一週目はマラリア診断の基礎を学びました。プレパラートの作成は、かなり機械的な作業なのですぐに習得することができました。ヒトに感染するマラリアには主に 4 種類があるのですが、診断の際にはきちんと種類の同定をする必要があります。プレパラートの作成の次は、既にある標本を使って各種類の特徴をそれぞれ学びました。特に熱帯熱マラリアは重症化しやすく判別が重要になってきます。

②実際に病院に赴き、問診や採血の見学と標本の作成



←地元の病院
採血室

左図で採った血液の
サンプル作成 →



②二週目は、先生方が進めておられるプロジェクトを見学させて頂きました。実際に現地の病院に赴いて、問診や採血は技術のない僕にはできませんが、サンプルの作成には前週に学んだ技術を生かして携わらせて頂きました。日本のドクターと比べても問診をととても丁寧にされており、インフォームドコンセントも徹底されていたのが印象的でした。

【食について】

主食はキャッサバ芋を蒸して作ったフフ、あとはポンドウという人参葉を煮込んだようなものが最もなじみのある食べ物だそうです。その他、魚を焼いたものや鶏肉、豚肉、牛肉、ヤギ肉なども食べることができます。特にバナナの皮で包んであるリボーケという料理はととても美味しかったです。おやつには、バナナやバナナを揚げたようなチップスはよく見かけました。チップスの味は想像通りの感じで僕にはあまり合いませんでした。



↑フフ



【現地の様子やハプニング】

気候は雨期の入りで日中で 28℃くらいでした。雨が降ったりすると朝晩は 20℃前後まで下がります。生活感で驚いたのが車の多さです。通勤ラッシュの時間帯は大渋滞で歩道のようなところに乗り上げて走っていく車も多く、右左折する際に並ぶという概念がないようで皆次々に交差点へ突っ込んでいきます。一度車道で故障して煙を上げて真っ黒になっている車も見ました。ハプニングとしては、道を歩いているときにパトカーに乗っている警察官に 1 ドルを要求されたことや、帰国時の空港で少くない額のチップや賄賂を要求されたこともあり、今から考えるとすごい思い出です。



市場



タクシー



ロボット信号



コンゴ川

【コンゴ民主共和国への渡航を通して】

僕にとっては今回がほぼ初めての単独での海外渡航で、当初はとても不安でした。ハプニングや驚くこともありましたが、でも、きちんと準備をして取り組めばとても学ぶことが多いと思います。ここには全然書き切れないほど多くの経験をして気づきを得ることができました。アフリカのハードルは皆さんが思ってるほどそこまで高くありません。是非勇気を出して行ってみたい！